

- distribution, *Jour. of Hydr.*, 90, 251-268.
- 清水 章・宝 馨・高棹琢馬, 1988: 対数正規分布の母数推定法の比較評価, 土木学会第43回年次学術講演会, II-1, 38-39.
- 寒川典昭・荒木正夫・船橋太道, 1988a: 情報と母数の数と最大エントロピー分布(その2), 土木学会第43回年次学術講演会, II-4, 44-45.
- ・—————・森 茂, 1988b: 1変数最大エントロピー分布の有効性の検討—他の分布との比較において—, 水文・水資源学会発表会, 30, 106-109.
- ・—————・大原基秀, 1987: 情報の与え方と最大エントロピー分布(その2), 土木学会第42回年次学術講演会, II-3, 36-37.
- ・—————・渡辺輝彦, 1986: 確率分布の推定母数の不確定性評価法, 土木学会論文集, 375 II-6, 133-141.
- 鈴木栄一, 1985: 気象, 気候における稀現象の解析, 天気, 32, 12, 3-19.
- 宝 馨・高棹琢馬, 1988: 水文頻度解析における確率分布モデルの評価規準, 土木学会論文集, 393 II-9, 151-160.
- 高棹琢馬・池淵周一, 1975: 降水観測がもたらす情報量とその観測網配置計画への応用, 土木学会論文報告集, 234, 83-95.
- 竹内邦良, 1980: 不確実性の定式化と分析—これらの動向から対処法も含めて—, ②水理・土工計画, 土木学会誌, 65, 9, 16-20.
- ・土屋一仁, 1988a: 正規分布, 対数正規分布およびピアソンⅢ型分布の PWM 解, 土木学会論文集, 393, II-9, 95-101.
- ・—————, 1988b: 正規分布および3母数対数正規分布の PWM 解の性能について, 土木学会論文集, 393, II-9, 103-112.

## 「熱帯降雨観測衛星 (TRMM) 計画」に関する研究会のお知らせ

衛星から熱帯域の降雨の定量的な3次元分布を観測しようとする TRMM (Tropical Rainfall Measuring Mission) 計画が, 日米共同研究として1996年8月衛星打ち上げを目指して着々と進行中です。現在, 日本側は衛星に搭載される降雨レーダーと衛星打ち上げに用いる H-II ロケットを, 一方, 米国側は打ち上げ衛星本体と可視近赤外放射計, マイクロ波放射計などを分担し, それぞれ宇宙開発事業団と米国航空宇宙局 (NASA) が中心となって研究開発が行われています。

本年7月, 宇宙開発事業団から, 「TRMM データを気象分野で有効に利用するための調査・検討」の委託が気象学会にあり, 7月25日の気象学会常任理事会で了承され, そのお世話を新田(勳)が行うことになりました。

TRMM 計画では, 衛星では初めて降雨レーダーが搭載されるとともに, 可視近赤外放射計, マイクロ波放射計などが搭載され, これら宇宙からのデータは気象分野の研究にとっても非常に貴重なデータとなることが期待されます。

つきましては, 気象学会秋季大会の翌日に, 以下のような研究会を計画しましたので, 興味をお持ちの方は奮ってご出席下さい。なお, 研究会ご出席の方には, 旅費の援助を考えていますので, 希望される方は下記の事務局 (気象研究所台風研究部 中沢哲夫) まで至急ご連絡

下さい。

日時: 10月26日(土) 9時—12時 (気象学会秋季大会翌日)

場所: 名古屋大学水圏科学研究所会議室

内容: (1) TRMM 計画の概要, 経過 (新田)

(2) TRMM 計画に関する研究計画

2. 1 降水の気候学 (松本)
2. 2 熱帯の降雨システム (中沢)
2. 3 亜熱帯域の降雨システム (加藤)
2. 4 熱帯域熱源と大気大循環 (露木)
2. 5 大気大循環モデルの検証 (鬼頭)
2. 6 数値予報モデルの精度向上 (隈)
2. 7 熱帯降雨と植生 (田中)
2. 8 降雨量算出アルゴリズム (中村)
2. 9 グランド・トゥース計画 (住)

(3) 総合討論—今後の TRMM 計画研究の方向  
データ処理体制

第2回 TRMM 研究会 (来年1月 or 2月)

\* 発表者は予定です。

TRMM研究会世話人 新田 勳 (気象大学校)

Tel (0471-44-7185) Fax (0471-46-1896)

事務局 中沢 哲夫 (気象研究所, 台風研究部)

Tel (0298-51-7111) Fax (0298-51-1449)

## 5. 今後への期待

地域の農業試験場は大多数が農学専攻者であるが、農業気象は理・工学専攻者が比較的に多い分野である。端的に表現すれば理・工学専攻者は生物や気象現象をシステムティックに、シンプルに視る頭脳と手法を持ち、農学専攻者は生物の総体的理解に優れ、作物育種の技術を持っている。一方、地球レベルでは環境変化・温暖化、農業サイドでは生態系調和型農業が叫ばれているが、いずれも生物の巧みな営みや気象の複雑な仕組みをよく理解し、応用することが一つの解決策であると思う。すなわち、専門や思考を異にする研究者が集まって共同研究や学際的研究、専門的研究を行うことが大切であり、また大きな成果も期待できる。是非農業研究機関に入って研究して頂きたい。願わくは植物が好きだったり、自ら水田に入って草取りをしたり、違う専門の研究者と議論したり、協調したりできる人を歓迎したい。そのような研

究者はいい研究をしているように私には思えるからである。

## 文 献

- 羽生寿郎, 内島立郎, 菅原 剛, 1966: Studies on the agroclimatological method for expressing the paddy rice products, Part 1. An agro-climatic index for expressing the quantity of ripening of the paddy rice, 東北農試研究報告, 34, 27-36.
- 井上君夫, 1990: 水田微気象予測システムの開発とその適用, 「農業生産管理システム構築のための情報処理技術の開発」研究成果, 農水省農研センター, 302-321.
- 一阿部博史, 1989: 久慈沿岸で観測される海霧の微気象特性, 東北農試研究報告, 81, 19-31.
- 片山 昭他, 1984: 北海道における海霧に関する研究, 科学技術庁研究調整局, 北日本太平洋沿岸地方における海霧と山背風に関する研究成果, 11-80.

## 研究会開催の案内

日本気象学会の秋季大会の前日に、「メソ気象研究会」と「大気-海洋相互作用研究会」を下記の要領で開催いたします。関心をお持ちの方は奮ってご参加下さい。

## 記

## I. メソ気象研究会

- (1) テーマ: 「クラウドクラスター」, コンビナー: 藤吉 康志 (名大)
- (2) 日時: 1991年10月22日 (秋季大会前日), 13時~15時45分
- (3) 場所: 名古屋大学水圏科学研究所大会議室 (3階)
- (4) プログラム
  - ①高藪 縁 (環境研): 熱帯太平洋域における積雲活動の短周期変動-偏東風波動と混合ロスビー重力波-
  - ②岩崎博之 (名大水圏研): 衛星から見たメソスケール雲群の evolution とその特徴
  - ③森 一正 (気象研): 西部熱帯太平洋域のクラウドクラスターの内部構造とその時間変化-啓風丸の観測データを使って-
  - ④赤枝健治 (気象研): 梅雨期に観測されたクラウドクラスターの内部構造

- ⑤蒲生 稔 (公資研): つくば地区での shallow cumulus に関する牧歌的研究

## ⑥コメントと総合討論

(事務局: 吉崎正憲, 坪木和久)

## II. 大気-海洋相互作用研究会

- (1) テーマ: J-COARE 計画の現状
- (2) 日時: 1991年10月22日 (秋季大会前日), 16時~18時
- (3) 場所: 名古屋大学水圏科学研究所大会議室 (3階)
- (4) プログラム
  - ①住 明正 (東大気候セ)・竹内謙介 (北大低温研): 各国の TOGA-COARE 計画の現状について
  - ②上田 博 (北大理): 熱帯赤道域におけるドップラーレーダーを用いた観測
  - ③高橋 劭 (九大理): 熱帯赤道域におけるビデオゾンデを用いた雲物理観測
- (5) その他: 今回はメソ気象研究会と連続して開催いたしますので, J-COARE 計画でメソ気象に関する研究を中心に話題を選びました。メソ気象関係者で J-COARE 計画に関心をお持ちの方は積極的にご参加下さい。(事務局: 藤谷徳之助, 中沢哲夫)